



新1年生を迎える
お子さんの保護者に向けて

なは女性センター講座2021

CAP式 子育てのヒント ～体罰に代わる“しつけ”の方法～

小学校への入学が間近に迫ったこの時期は、お子さんにとっても保護者にとっても、期待に胸を膨らませワクワクする時でもあります。同時に不安を感じる時でもあるかもしれません。

勉強はついていけるかな、お友達とは仲良くできるかな、入学までにせめてこれくらい身につけさせておかなければ…。

あれもこれも不安な気持ちになってくると、ついお子さんに「○○してはダメよ!」と大きな声で怒ったり、思わず手をあげてしまう場合があるかもしれません。このような時に、どう対処したらよいのでしょうか。

今回は、子どもが暴力から自分を守るための教育プログラムを県内で展開しているNPO法人おきなわCAPセンターの皆さんに、体罰に代わる“しつけ”の方法についてお話しいただきます。

就学前のお子さんがいらっしゃる保護者の皆さん、ぜひご参加ください。

日時： **1月27日(木) 午前10時～12時**

講師：奥間 智香枝 (NPO法人おきなわCAPセンター事務局長)
安里 千恵子 (CAPスペシャリスト)
井形 陽子 (CAPスペシャリスト)

会場：なは女性センター 第2学習室

対象者：令和4年度に新1年生となるお子さんの保護者

定員：24人 (事前申込先着順)

* 一時保育は当面の間、休止いたします。手話通訳をご希望の方は、1月20日(木)17時までにお申し出ください。

* 新型コロナウイルス感染症などの状況により、変更する場合があります。

●おきなわCAPセンターとは…

CAPとは、Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止)の頭文字をとったもので、子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。おきなわCAPセンターは1996年に発足。県内各地でワークショップを実施しています。

～子どもがもっている大切な権利、それは「安心」「自信」「自由」の権利です～



なは女性センターを利用される皆さまへご協力をお願い



「なは女性センターにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って、ご利用いただきます。体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。マスク着用、検温、手指消毒のご協力をお願いします。今後の状況により、変更する場合があります。最新の情報は市ホームページでご確認ください。

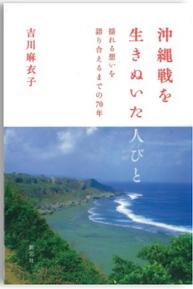
12/28(火)は午後6時閉館です。12/29(水)～1/3(月)は年末年始のため休館いたします。

講座を 終えて

講座名：「沖縄戦」を生きぬいた人びと

開催日：2021年11月26日(金)午後2時～4時 参加者：19人

講師：吉川麻衣子(沖縄大学人文学部福祉文化学科教授/臨床心理士/公認心理師)



▲2017年6月発行
(創元社)

2017年に出版された『沖縄戦を生きぬいた人びと～揺れる想いを語り合えるまでの70年～』(創元社)を読み終えた時、著者の吉川さんから直接お話を伺いたいと強く思いました。その思いは、新型コロナウイルス感染拡大により、今年の2月、4月と2度も延期となりましたが、やっと開講することができました。

沖縄戦の体験談の聞きとりをすることにあたって、調査、研究にとどまらず、地域で安心して語り合える場「サポート・グループ」を創り(=共創)活動されていることに感動しました。

1966年の精神衛生実態調査によると、沖縄県の子供の精神疾患の罹患率は全国平均の2倍。統合失調症の有病率は3倍である、と報告されています。沖縄戦以前は県外平均との顕著な隔たりは無かったそうです。沖縄戦によって人生を狂わされたのです。戦争という国家の暴力により、奪われたものがその後の生活にどれだけの影響を与えたのか想像しがたいものがあります。

今回の講座では、本の中から沖縄戦で家族全員を失い、一人で生きてきた「ハルさん」を取りあげて話を聞きました。壮絶な沖縄戦を体験したハルさんが、「今までずっと一人で生きてきた」「気持ちを語ると楽になると感じる」「語るまで60年かかった」と、再び人を信じられるようになっていく過程に心うたれました。

サポート・グループのメンバーが見守る中で、亡くなったハルさん。「別れがたい人がいると逝くのは寂しい」と語ったハルさん。

ハルさんの通夜から戻った吉川さん宅に、亡くなる2日前に書かれたハルさんからの手紙が届いていたことに驚きました。信頼できる人と巡り合い、深くつながれる人生を取り戻したハルさんを思いました。

天妃小学校4年生の時に、学年主任の翁長安子先生の沖縄戦の話に衝撃を受けた吉川さんの体験が、今日の活動につながっているのだと知りました。翁長安子さんに感謝いたします。

「沖縄戦体験の継承の必要性」を改めて確認することができた時間となりました。



受講者アンケートから

研究の成果について考え、そこから実践研究や語り合いの場につなげていかれたことに深い衝撃を受けました。(30代)

平和ガイドをしています。戦争トラウマの問題は、沖縄戦を語る(ガイドする)とき、このテーマは欠かせないものだと思います。(70代)

住民を巻き込んだ地上戦を経験しているうなあーんちゅは、戦争トラウマを引きずっているのだと思い、心が痛くなりました。(60代)

吉川さんが聞き取りされたことをどのように伝えられるのか、とても興味があり参加しました。個人の沖縄戦体験を伝えることがこんなにセンシティブなことだと、今日初めて感じました。(40代)

ハルさんの話を伺いながら母のことを思い、涙が出ました。もう少し母の話をつゆくり聴いてあげればよかった。(50代)

令和3年度「那覇市男女共同参画研修参加費補助金」研修費用の一部を助成します！

あらゆる分野の男女共同参画の推進に不可欠な人材の育成に資する国内外の男女共同参画研修への参加促進を目的に、研修参加者に対し研修参加費用の一部を助成します。

対象研修：①沖縄県女性海外セミナー「女性の翼」事業 ②その他市長が必要と認めた男女共同参画研修事業
* 県内開催の研修は、補助対象外。

補助対象者：下記のすべての条件を満たしている那覇市民が対象となります。

- ①那覇市に住民登録のある個人 ②市税を滞納していない者
- ③研修参加後、那覇市男女共同参画事業へ積極的に参加・協力できる方

補助金額：経費の2分の1以内(上限5万円) / 補助回数：原則として同一人に対し年度内1回

補助対象経費：「補助対象研修」への参加費用 *ただし、面接及び事前研修等に要する費用、渡航手続き、旅行保険、懇親会費等、その他個人の負担に属する費用は含まれません。

募集締切：2022年1月31日(月)まで *ただし、助成額が予算に達し次第、終了します。

詳しくは、市ホームページ、または、なは女性センターまでお問い合わせください。



その⑥

なは女性センター 25周年

25周年を迎えるにあたり、
そのあゆみを振り返ります。

演劇集団FEC芸人あぎじゃび商店 による公演会「DVはいらない!!」



▲当日はポスターと同様のクリアファイルを配布しました。

2012年1月28日(土)に、住民生活に光をそそぐ交付金によるDV防止意識啓発事業として、DV加害者にも、被害者にもならないために「DV(暴力)はいらない!!」公演会をパレット市民劇場で開催しました。

当日は、10代から80代まで400人近くの参加があり、「お笑いの中でも真実をしっかりと伝えることで、DV防止の啓発に効果があるのでは」などの声が寄せられました。



▲舞台でのあぎじゃび商店。第2部のトークセッション(写真右)では、コメンテータの中村淑子さんを交え「デートDV」の寸劇から学びました。



「思春期の心と体」のための意識啓発事業スタート



▲生徒とのロールプレイの様子

2011(平成23)年度から、NPO法人おきなわCAPセンターとタイアップし、「思春期における“安心・自信・自由”な関係づくり～自分を大切に、相手を大切に～」をテーマに

市内公立中学校1年生を対象に、意識啓発事業を開始しました。

この啓発事業は、自己コントロール感を得ることや人間関係トラブルから自分を守る方法を考え、また、若年者同士の「デートDV」等の問題を取りあげ、いじめ防止やデートDV防止、将来のDV防止に繋げることを目的に実施しています。

2020(令和2)年度は、教職員130人、生徒2,435人(中2実施1校含む)が参加しました。



▲体育館での様子。現在は「人間関係づくりを考える」をテーマにプログラムを行っています。



Book

★女性問題やジェンダーに関する図書の貸し出し及び資料の閲覧ができます。
☆貸出し期間:2週間 お一人2冊まで

①『女ふたり、暮らしています。』

キム・ハナ、ファン・ソヌ 著/清水知佐子 訳
/CCCメディアハウス 発行/2021年3月6日発行/334頁

②『持続可能な魂の利用』

松田青子 著/中央公論新社 発行/2020年5月25日発行/240頁

③『せやろがい！ではおさまらない』僕が今、伝えたいこと聞いてくれへんか？

せやろがいおじさん 著/ワニブックス 発行/2020年10月20日発行/189頁

④『よかれと思ってやったのに』男たちの「失敗学」入門

清田隆之(桃山商事) 著/死後くん 装画/晶文社 発行/2019年7月15日発行/261頁

⑤『しくじりから学ぶ13歳からのスマホルール』

島袋コウ 著/旬報社 発行/2020年2月20日発行/207頁

⑥『ALLYになりたい』-わたしが会ったLGBTQ+の人たち

小島あゆみ 著/かもがわ出版 発行/2021年9月24日発行/183頁

⑦『図解でわかる14歳からのLGBTQ+』

社会応援ネットワーク 著/太田出版 発行/2021年9月28日発行/95頁

⑧ 不登校・ひきこもり・発達障害・LGBTQ+『生きづらさの生き方ガイド』

～本人・家族の本音と困りごと別相談先がわかる本
大橋史信、岡本二美代 共著/日本法令 発行/2021年7月1日発行/228頁



相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

 **098-861-7515**

月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。



性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「当事者と知り合いたい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた、誰でも参加できる交流会です。みんなが安心して語り合える場所作りを目指します。

開催日: 12月25日(土) 14時～16時 / 場所: なは女性センター

主催: 市民団体ていーだあみ

問合せ先: tiidaami.okinawa@gmail.com

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。

→ <https://www.facebook.com/rainbow.okinawa/>



那覇市パートナーシップ登録

「那覇市パートナーシップ登録」は、戸籍上の性別が同じである2人の申請に基づき、市長が両者をパートナーシップ関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、証明書を交付するものです。

■「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取組です。登録によって何らかの法律上の効果(婚姻、相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

登録数 **42** 組
2021年12月15日現在

■お問い合わせ・申請の予約■

TEL. 098-951-3203 ◆月～金: 午前9時～午後5時

* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始を除く



8月初旬に次女が誕生し、8月中旬から9月中旬までの1か月間、育児休業を取得しました。私事で恐縮ですが育児生活の一部をお伝えしたいと思います。



▲祝100日♪

思い返せば、長女(4歳)が誕生した時は、育児取得なんて頭にありませんでした。モデルケースとなる男性職員が近くにいなかったからだと思えます。あれから、4年の歳月が経ち、私の周りでも「1か月、育児取得したよ」という声が耳に入るようになったことで、育児を取得してみたい気持ち芽生えるようになりました。

次女が無事生まれ、「いざ育児を！」と意気込んでいた矢先、提出書類の膨大さに愕然としました(°o°) 出産が予定日より10日間ほど早まったことで、育児期間までに「準備が間に合うのか」と血の気が引いていったことを今でも覚えています(笑)。今年4月に、職場へ育児取得したい旨を伝えていたことで、どこか安心しきってしまい、書類の準備を後回しにしてしまいました。この反省を生かし、独自に『これでほぼ完璧！育児攻略ガイド(内容簿)』としてまとめたので、次こそは、心に余裕を持って対応できそうです☆

さて、8月～9月の育児休業取得後、現在までは、育児休暇(用語がややこしい～)を取得し、1時間早めに仕事を切り上げ、次女のお風呂入れや長女の保育園のお迎えに時間を充てています。育児制度を詳しく調べてみると、(要件次第ですが)「子が1歳になるまでに、あと1回取得できる」ことになっているので、12月中旬から1か月間、2回目の育児休業を取得します。そのときの奮闘記を、またご報告することができれば幸いです。それでは皆さま、一足先に、よいお年を♪

(仲宗根 学)

▲お出かけ準備OKです!

◆なは女性センター講座について

*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、Eメールでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問い合わせ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)
TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204
Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

開館時間 月～金: 午前9時～午後9時 土曜日: 午前9時～午後5時
休館日 年末年始(12/29～1/3) 日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は有料です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間に1時間に満たない端数は1時間として計算。	